

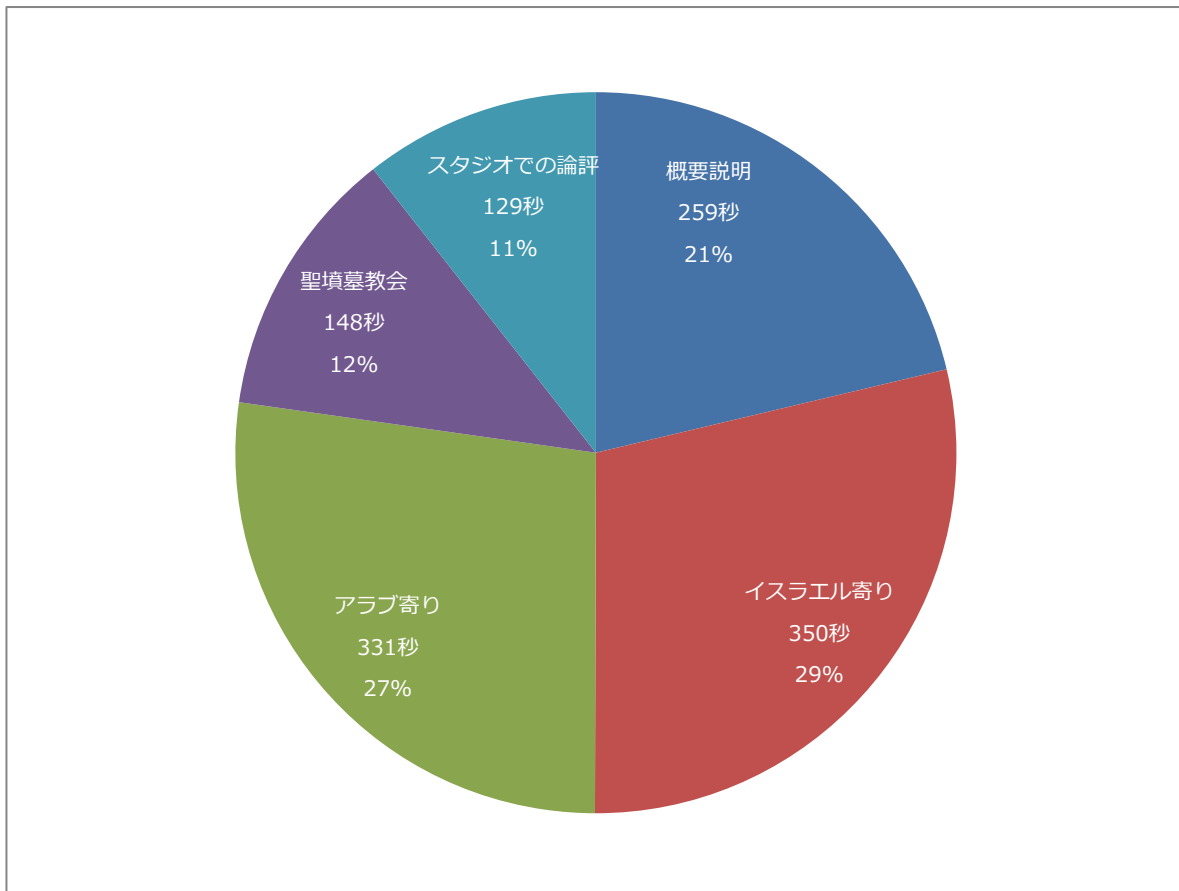
TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2018年5月19日
出演者：日下部正樹、膳場貴子、金平茂紀、竹内明		
検証テーマ：太平洋・島サミット、狛江市長セクハラ、米大使館移転、米国内の親北朝鮮派		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英ロイヤルウエディング ・日大タックル ・テキサス高校銃撃 ・キューバ機墜落 ・スクールバス横転 ・ネカフェ刺殺 ・新潟女児殺害 ・太平洋、島サミット ・福島、飯舘村で8年ぶり運動会 ・障害者スポーツ体験イベント ・狛江市長セクハラ ・盗撮男性から恐喝 ・北関東自動車道で事故 ・米大使館移転 ・米国内の親北朝鮮派 ・スポーツ情報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニング：結論→問題あり 番組のオープニングで金平茂紀キャスターが「岸井成格さんが亡くなりました73歳でした。生前岸井さんは体を張って政治の劣化や報道の自由の危機を訴えてみました。ちょっと感傷的になっていた折、大阪地検が佐川元理財局長を起訴しない方針を固めたことを知りました。岸井さん。これは私たちの国の現実です。」と発言していた。なお、この発言のシーンは20秒で、森友学園問題及びそれに対する大阪地検の動きについては他のシーンでは一切触れられていなかった。 ・太平洋、島サミット：結論→特に問題なし 太平洋の島嶼国の首脳などが集まった国際会議が開かれ、北朝鮮に対し非核化に向けた具体的な行動を求める首脳宣言が採択されたことが伝えられた。また、安倍総理の『瀨取り』等の北朝鮮による制裁回避への対応を含め北朝鮮に対する圧力を維持していくことを確認しました。」という発言が取り上げられていた。このトピックについて当てられた時間は64秒で、放送法の見地からは特に問題は見られなかった。 ・狛江市長セクハラ：結論→特に問題なし セクハラ疑惑が取り沙汰されている東京狛江市の高橋邦彦市長について、これまで指摘されていたものとは別 		

のセクハラ行為が市の内部調査で確認されたことが明らかになったこと、副市長は昨日市長本人にこれらの調査結果を報告し辞職を促しましたが市長は明確な返答をしなかったとことが伝えられると共に、狛江市の水野穰副市長の「新たなセクハラの実態というのが私どもで確認できた。市長によるセクハラ行為が確認できた。」という発言が取り上げられた。このトピックについて当てられた時間は秒で、放送法の見地からは特に問題は見られなかった。

・米大使館移転：結論→VTR は評価できるもののスタジオでの議論に問題

アメリカの在イスラエル大使館移転について取り上げられた。このトピックについて当てられた時間は 1217 秒で、移転及びイスラエルの問題についての概要説明、VTR 中でイスラエル寄りの意見が紹介されたシーン、VTR 中でアラブ寄りの意見が紹介されたシーン、異なる宗教や宗派の共生の例として聖墳墓教会が取り上げられたシーン、スタジオでの論評という 5 つに大別された。それぞれの時間配分及び比率は以下の通りである。



概要説明では経緯説明のほか、中東問題研究会の中島勇氏へのインタビューで膳場キャスターが「アメリカがエルサレムに大使館を移すっていう、これはどういうことを意味するんでしょうか。」と質問するのに対して、中島氏が「外交政策とかですね、あるいは中東全体をどうするかということとは全く関係なくですね、その国内事情を優先してやったということで中東地域で、その必要な緊張要因がですね、新たに生まれたというのが現状だと思います。」と答えるシーンが取り上げられていた。

イスラエル寄りの部分では駐日イスラエル大使ヤッファ・ベンアリ氏へのインタビュー、トランプ大統領の娘婿クシュナー氏や有力支援者アデルソン氏がユダヤ系であること、政権の支持層の福音派についておよび福音派へのインタビューなどが取り上げられていた。

ベンアリ氏へのインタビューでは以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

ベンアリ氏「今回犠牲となった人々の9割以上はテロ組織の人間です。我が国は4万人の群衆から攻撃を受けたのですよ。犠牲になった60人は不運でしたし、確かに悲劇と呼ぶべき出来事かもしれませんが、60人です。4万人中の60人ですよ。つまりイスラエル軍は攻撃を最小限に抑えていたことを示しています。」

金平「国連人権高等弁務官事務所の報道官はイスラエルの武力行使を『許されない行為』と批判している。この発言に対してどう思いますか。」

ベンアリ氏「イスラエルはこれまでずっと偏った視点の犠牲者となってきました。事実がわかる前に批判されてしまうのです。イスラエルは孤立しています。この国際社会がいかにか偏っているか偏った見方をしているかが分かります。」

福音派についてはトランプ大統領の大使館移転という決断の背景として取り上げられ、「政権の有力な支持基盤であるキリスト教福音派」、「プロテスタントの一派である福音派は、アメリカの人口の1/4を占め、最大の宗教勢力」と紹介されて、ニューヨークで活動するリユーク・ムーン牧師へのインタビューでは以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

ナレ「福音派はキリスト教の中でも聖書に忠実であることを特に重視している。ムーン氏によるとエルサレムへの移転を支持する信者は、福音派の8割にのぼるといふ。」

ムーン「大きな理由は聖書で目にするからです。毎日聖書を読み、毎日イスラエルエルサレムイスラエルエルサレムとあちこちで目にするからです。国連やヨーロッパ中東の他の国がエルサレムはイスラエルの首都ではないと言ったところで、いや首都だよ。聖書にそう書かれている。毎日それを読んでいるという話になります。賛成しない国もありますが、だから何です。我々が支持しているんです。」

ナレ「抗議デモで死者が出ていることについて尋ねてみると」

ムーン「何であれ人が亡くなることは本当に嘆かわしい。私に分かることはイスラエルはとても難しい立場に置かれ武力で対応していますが、結果がどうなるかは様子を見る必要があるということです。」

記者「アメリカ大使館の移転と関係はない？」

ムーン「何とも言えません。ナクバの日のデモ自体は毎年のことですから。」

また、福音派を主な視聴者としているテレビ局 CBN の記者で自身も福音派の信者であるデイビッド・ブロディ氏へのインタビューでは以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

ブロディ「トランプ大統領は聖書に書いてあることを実行しているので、福音派の人々はエルサレムへの大使館移転を高く評価しています。」

ナレ「大統領への福音派の支持は、かつてないほどに強いと話すブロディ氏。その背景にはこんなこともあるという。」

ブロディ「トランプ大統領は就任初日から最高の働き全て公約通りです。トランプ氏は福音派の文化的戦士でこれ以上乱暴に扱われないよう守ってくれるボディガードのような存在です。福音派はこれまで、ぞんざいに扱われてきました。ああ福音派か狂った右派なんだろうと屈辱的な扱いを受けてきました。しかしトランプ氏は福音派の何が問題だ善い行いをしようとする良い人たちだと言ったんです。」

アラブ寄りの部分ではナクバの日に行われたパレスチナ自治区での抗議行動の様子やデモに参加した男性へのインタビュー、パレスチナ難民キャンプのアブスール氏へのインタビュー、東エルサレムにあるアラブ人・パレスチナ人を対象にした病院での様子が取り上げられた。

デモに参加した男性へのインタビューでは以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

デモに参加した男性「平和な行進に参加するために来ました。」

ナレ「平和的にデモをしていたというこの男性は、イスラエル兵士に銃撃され銃弾が左足を貫通右足まで達した

と言う。」

記者「トランプ大統領についてどう思う？」

デモに参加した男性「いなくなっしてほしいです。彼の行為は論理的ではない。強引にエルサレムに大使館を移転するなんて。」

パレスチナ難民キャンプのアブスール氏へのインタビューでは以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

村瀬健介「こちらはパレスチナの難民キャンプなんですけれども、もうほとんど町のようになっていますけれども、70年前のイスラエルの建国と共にですね、難民になった人たちが暮らしています。」

ナレ「85歳のアブスールさん。70年前故郷の村がイスラエル軍の襲撃された。」

アブスール「悲惨でした。自分の家を去らなければいけないとしたら、あなたはどう思いますか。でも仕方ありませんでした。」

ナレ「15歳から難民として暮らすアブスールさん。難民キャンプの中で雑貨店を営み生計を立てている。去年12月にはデモ隊とイスラエル治安部隊との衝突に巻き込まれたという。」

アブスール「礼拝に向かう途中、ユダヤ教徒に足を撃たれたんです。今でも足が痛みます。意識不明となって診療所に運ばれ、そこで手術を受けました。」

ナレ「70年経った今もアブスールさんは故郷を思い続けている。」

記者「手に持っているものは何ですか。」

アブスール「故郷の実家のカギです。家の全てのカギを今も持っています。私は病気ですが、死ぬ時には故郷の自分の家で死にたいと、神様にいつも祈っています。」

東エルサレムのアラブ人・パレスチナ人を対象にした病院では以下に朱記した様子が取り上げられていた。

村瀬「こちらはですね、東エルサレムにあるアラブ人、パレスチナ人だけを対象にした病院です。」

ナレ「当時この病院には抗議活動に参加し胸を撃たれた二十歳の男性が運び込まれた。」

男性「ここに怪我人がいるから銃撃を止めるように必死で合図しました。それでも銃撃はやまずここにゴム弾の跡が残っています。」

ナレ：ケガをしたその男性アブラナムさんが病院に運び込まれるのと同時に、イスラエルの治安部隊およそ50人が押しかけた。」

村瀬「防犯カメラに写っているのはまさに、この場所です。患者を手術室の方に運ぼうとする病院側と治安部隊との間で激しい争いとなったのです。」

ナレ「ストレッチャーに乗せられたアブガナムさん。彼を拘束するために治安部隊の兵士達が行く手を阻んでいる。」

男性「治安部隊の兵士たちは警備員、医師、看護師、全員を殴りました。ものすごい興奮状態でこのエレベーターで手術室まで運び込もうとするのを。動くことすらできないアブガナムさんも激しく殴りつけられました。」

ナレ「この騒ぎの中アブガナムさんは息を引き取った。病院の人事部長はまるで戦場のようだったと語る。」

病院の人事部長「イスラエル兵がイスラエル人の病院でこんなことをすると思いますか。ありえません。あの事件は占領という現実の最も醜い側面でした。」

聖墳墓協会については以下に朱記した様子が取り上げられていた。

ナレ「イスラエルとパレスチナの衝突が続く一方、エルサレムは三つの宗教の聖地として長年の努力によって微妙なバランスが保たれてきた。キリスト教の聖地、聖墳墓教会はカトリックや聖人協会などキリスト教の六つの宗派が共同で管理している。協会の鍵を管理しているのは驚くことにイスラム教徒だ。アビード・ジョウデさん。

800年以上前から先祖代々鍵の管理を受け継いできた。毎日朝5時に教会を開ける。夜9時に戸締りをする。」
 ジョウデ「名誉ある仕事です。この教会は私の二つ目の家のようなもの。毎朝鍵を開けるために教会にくると、父や祖父先祖たちの姿が目には浮かぶのです。」

ナレ「なぜイスラム教徒の一族が、鍵の管理を任されているのか。」

ジョウデ「もし私が鍵をギリシャ正教徒に渡したら、カトリックは嫌がるでしょう。各宗派のバランスを取るために、私たちが鍵の管理をしています。」

ナレ「今回の大使館移転について尋ねてみると政治的な発言をすることはできないと答えたジョウデさん。だが長年受け継がれてきた聖地の現状に手をつけるのは超えてはならない一線だと話す。」

ジョウデ「現状を誰も変えられません。レッドラインだから。この環境を皆が尊重しているから誰も変えてはいけないのです。この現状に手を入れようとする者がいるなら第3次世界大戦になるでしょう。」

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返り広げられた。

膳場「あのお話を伺った中東調査会の中島さんはね、アメリカの大使館移転について、これは外交ではないと、中東でホワイトハウスの選挙キャンペーンをやっていると考えればいいとおっしゃってました。確かにね、国際社会から見ると本当支離滅裂な政策ですけども、この秋の中間選挙それから2年後の大統領を再選に向けたキャンペーンだと思ってみると、なるほど腑に落ちるんですよね。」

金平「あの一私は昨日東京でイスラエル大使のベンアリさんにお聞きしたんですけども、あの非常に強行で攻撃的な主張に終始したって印象だったですね。あのVTRに中でも60人の死者が出たことについて言ってますけど、結局は自衛のためにと正当化してるというような。今回の流血の事態に関してはですね、国際社会では国連、国際赤十字、国境なき医師団とかいろいろなところがですね、あるいはイスラエルの国内の野党メディアからも非難の声あがってるんですけども、聞く耳を持たないって感じだったですね。でイスラエルを非難することはテロ組織を応援することになるんだって、そういう感じだったんですけど、結局インタビューは平行線のまま終わったんですけども、歩み寄りっていうのが見えないような状況ってのが現実だと思いましたですね。」

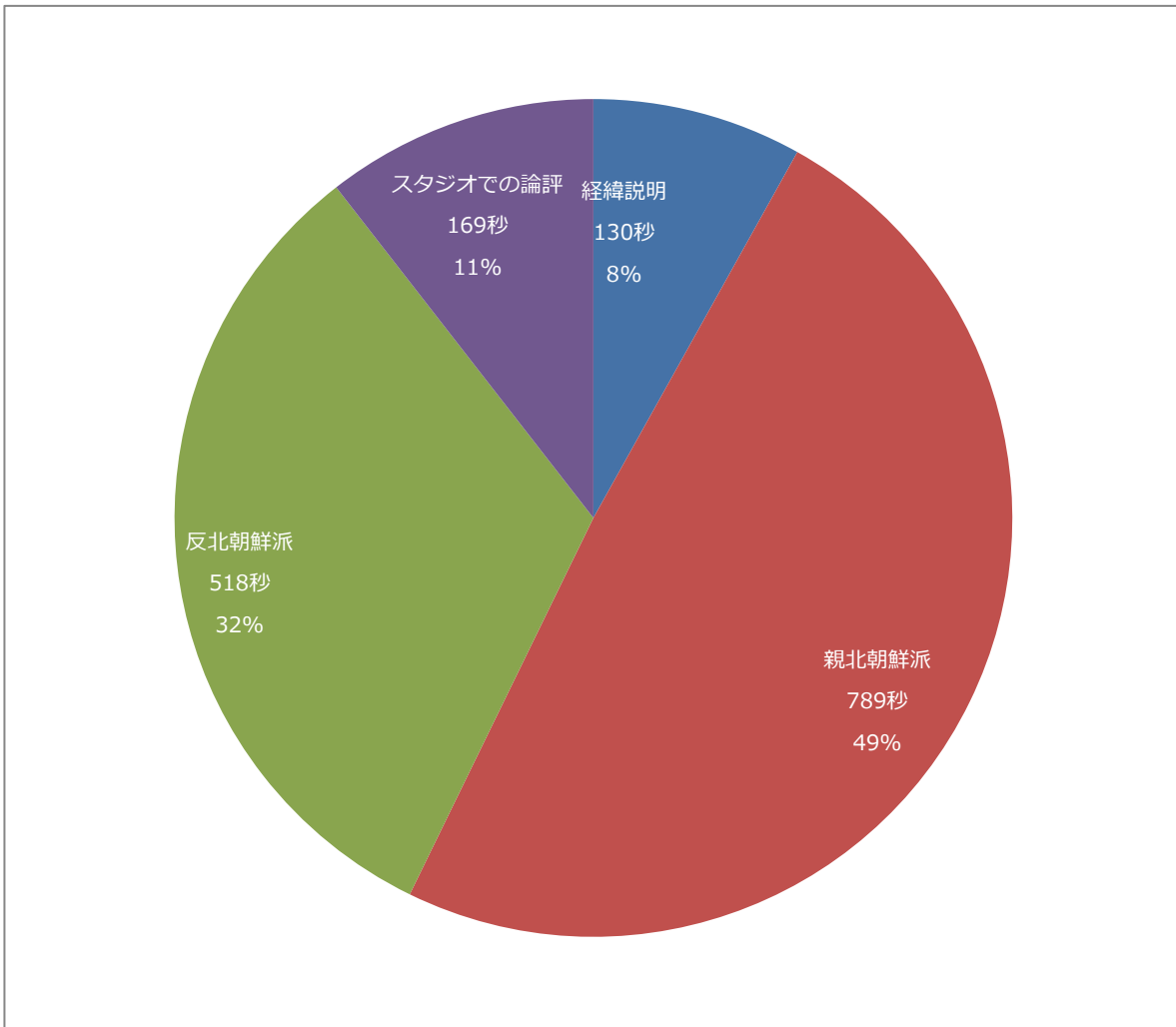
日下部「1993年のオスロ合意の時、毎日新聞で中継を担当してたんで非常にこう印象に残ってるんですけども、ポイントはアメリカの仲介によってイスラエルとパレスチナがですね、共存に向けた協議を始める。中東平和の道が始まったわけですよ。そしてその中でエルサレムの地位については当事者が交渉中で決めてくるんだということになって、それを世界の各国も支持したわけですね、イスラエル寄りといわれるアメリカも長い間は大使館をテルアビブに置いてきたわけですよ、それにしても今回の決定がね膳場さんが触れたように中間選挙などアメリカの国内事情によるところがね、多いとすれば60人以上のパレスチナの人々は何のために死んだのか、これももっとも問われていいことだと思います。」

VTRの構成自体はイスラエルやイスラエル寄りの立場、アラブやパレスチナおよびそれら寄りの立場、聖墳墓教会の例など、様々な観点や立場からの意見を取り上げていて、放送法第四条一項四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること。」という点で高く評価できるものだった。しかし、スタジオでの議論では一貫してアメリカの決定やイスラエルの態度に対して批判的、パレスチナの側に立った議論が展開されておりその事自体も問題であるが、この時間もアラブ寄りのものとしてカウントした場合は、番組全体としてもアラブ寄りに大きく偏った時間配分となってしまう。このような点では放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」という点において非常に問題のあるものであった。

・米国内の親北朝鮮派：結論→特に問題なし

アメリカ国内でも北朝鮮に対して親北朝鮮派と反北朝鮮派の対立があることが取り上げられた。このトピック

について当てられた時間は秒で、経緯の説明、親北朝鮮派、反北朝鮮派、スタジオでの論評という4つに大別された。それぞれの時間配分及び比率は以下の通りである。



新北朝鮮派を取り上げた部分では北朝鮮への制裁解除を求めるデモ、ロー・キムナム氏へのインタビューが取り上げられた。制裁解除を求めるデモでは以下に朱記した様子が取り上げられていた。

ナレ「3月アメリカ、ロサンゼルス。観光客が集まるハリウッドの一角で行われたデモ。参加者の多くは韓国、朝鮮系アメリカ人だ。北朝鮮への経済制裁をやめろといった看板が並ぶ」

参加者「米朝対談は良い機会です。頼るべきものが核兵器しかなくなれば、北の指導者は核兵器を手放せなくなるのです。身を守る唯一の手段だからです。北朝鮮の立場からすれば経済制裁があるから、より多くの兵器を持つのです。」

ナレ「北朝鮮との戦争を回避や南北統一を訴えるデモだというのが・・・。」

竹内「こちらをご覧ください、この看板にはですね『北朝鮮には自衛する権利がある』と書かれていますね。まさに北朝鮮の核武装を正当化する言葉と言えそうです。」

ナレ「反戦活動家と共にデモを行っていたのは親北朝鮮派と呼ばれる集団。北朝鮮金正恩体制を擁護する人々だ。」

また、ロー・キムナム氏へのインタビューでは以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

ナレ「果たして彼らは北朝鮮からの指令で動いているのか。その狙いは。ロサンゼルスのコリアンタウン。年々拡大を続ける韓国系移民の街だ。その外れの住宅地に、親北朝鮮派の中心的人物、しかも北朝鮮の指示で世論工

作をしているのではないかと米韓の専門家達が疑いの目を向ける男がいる。ロー・キルナム氏 74 歳。韓国生まれのアメリカ人。北朝鮮情勢を伝えるニュースサイト、民族通信の編集長だ。英語とハングルで発信される記事や YouTube 上の平壤レポートには金正恩体制を讃える言葉が並ぶ。」

ロー氏「このプールに来て各界各層全ての人と会いました。一様に勝利の確信に溢れていました。今緊張した情勢の中でも悠々と遊びながら戦争が起きたら母も父も銃をとって必ず自分たちが追い払うのだという決意と覚悟を鉄壁のように持つ姿を見えています。」

ナレ「北朝鮮はアメリカに打ち勝つのだと高らかに語る。」

ロー氏「この国の未来は結局何時でも明るく燦燦としていることを今一度感じました。そして今回の朝米対決は必ず北朝鮮の勝利に終わるだろう。「朝鮮の勝利が化学である」という言葉を再び感じながら感動しました。」

ナレ「北朝鮮国営メディアとよく似た論調。これをアメリカから発信しているのだ。だがロー氏は疑惑の目を向けられることに怒っていた。」

記者「これは北朝鮮指示のウェブサイトですか。」

ロー氏「多くの方が北朝鮮支持とか韓国支持とか言いますが、無意味な質問ですよ。私たちは社会正義を支持しているだけです。分かりますか。私たちは二つの朝鮮ではなく朝鮮半島の統一を支持しているのです。私達は共和国支持者と言われますが、それは違います。韓国の学校では間違えた教育をしています。真実ではないのです。私が真実を伝えなければなりません。だから私は長い間真実の共和国を伝え続けているだけです。」

ナレ「韓国朴正熙政権下で反体制の学生だったロー氏は 1973 年に渡米シテキサス大学大学院で学んだ。1990 年以降、北朝鮮に 75 回も渡航。金日成主席、金正恩党委員長と面会したこともある。その印象を問うと。

ロー氏：金日成主席は偉大な人物です。驚きましたよ。私は歴史的な指導者に会えたことを誇りに思います。韓国にはそんな指導者はいませんでした。だから韓国は他国に侵略され続けているのです。金正恩党委員長は大変偉大な人物だと思います。彼の手はとても大きく祖父の金日成主席と握手しているような感じがしました。

ナレ：韓国政府はロー氏に厳しい姿勢で望んできた。民族通信を北のプロパガンダメディアとみて、国内からのアクセスを遮断したのだ。また FBI はロー氏の友人の親北朝鮮活動家が北朝鮮の工作機関から秘密指令を受け、アメリカでスパイ活動をしていたとして逮捕している。当局からその動向注視されるロー氏は北朝鮮側からの支持や支援を否定する。その一方で・・・。」

ロー氏「これが金日成賞。これは博士号です。」

ナレ「北朝鮮政府から授与された政治学の博士号。そしてこれは金日成賞。北朝鮮の発展・思想普及に貢献した人に贈られるもので、最高人民会議から授与されたという。」

記者「重いですね。本物の金ですか？」

ロー氏「そうだと思います。」

記者「かなり重いんですね。これが勳章なんですけれども。金日成氏の肖像画が描かれています。」

ロー氏「貰えるとは思っていませんでした。私がこの賞をもらった時、共和国の人々は皆が驚いていました。私は自分の仕事をしただけ、真実を伝えるジャーナリストとしての仕事をしただけです。だから彼らは私にこれをくれたのです。」

記者「北朝鮮はあなたを評価した？」

ロー氏「そう思いますよ。ただ私は共和国のために仕事をしたわけではなく、自分の仕事をしただけです。」

ナレ「ではロー氏が伝えたい真実とは何なのだろうか、厳しい質問をぶつけてみた。」

記者「北朝鮮の核兵器保有についてどう考える？」

ロー氏「共和国でも賢く頭の良い国です。だから彼らは核抑止力を持ったのです。核兵器ではありません。核抑

止力です。私は共和国に盛大な拍手を送りたいですよ。彼らが核抑止力を持たなかったらトランプは共和国を侵略し潰したでしょう。でももう不可能です。今や共和国は驚くべき兵器を手に入れました。アメリカですら持っていないようなものをね。」

ナレ「過激な主張で北朝鮮の核武装を正当化するロー氏。さらに・・・」

記者「北朝鮮の人権問題についてどう考える？」

ロー氏「西側メディアは皆その質問をしますね。人権とは何でしょうか。共和国市民は生きる権利、学ぶ権利、医療を受ける権利を持っています。でも資本主義国ではそれが保証されていないと言われてますね。社会主義国、特に朝鮮民主主義人民共和国は人権の最も保障された国。スーパーナンバーワンの国なんです。」

記者「多くの人は飢えているのでは？」

ロー氏「資本主義国の報道機関は人権問題と言いますが、あなた方は麻薬を作る権利とか、性的なことを楽しむ権利のことを人権と言ってるだけじゃないですか。」

記者「金正恩は独裁者ではないと思う？」

ロー氏「皆、独裁者だ、専制政治だとか言うけど、私はそうは思いません。彼は人民のために存在しているのです。」

ナレ「北朝鮮の主張そのものだ。」

記者「金正男氏の暗殺についてどう思う？」

ロー氏「完全に嘘です。嘘だけでなく、あれはアメリカの仕業です。誰が背後にいたか、背後にいたのはアメリカ CIA です。」

ナレ「では日本人拉致問題についてはどう説明するのだろうか」

記者「日本人拉致も嘘の話だと思う？」

ロー氏「嘘だとは思いません。北朝鮮が誘拐したのです。でも金正日総書記は支持していません。地位の低い人たちが実行したのです。彼らもそれを認めています。でも金正日氏とその悲劇を明らかにすると、逆に日本は反北朝鮮運動にそれを利用したのです。」

ナレ「北朝鮮の公式見解と重なっている。独自の主張で金正恩体制を正当化する親北朝鮮派。2月ニューヨークで行われた朝鮮半島統一平和デモでも、彼らは参加していた。アリランを共に歌うのは北朝鮮国連代表部のチャ・ソンナム大使だ。ロー氏の民族通信にはこんな記事も。ニュージャージー州で行われた全米の親北朝鮮派の会合。中心にいるのはチャ国連大使だ。参加者によると酒を飲み大使の冗談などで盛り上がったという。結束を固める北朝鮮支持者。」

反北朝鮮の立場を取り上げた部分では、北朝鮮への制裁解除を求めるデモに対して乱入したカウンターデモ、元 CIA 分析官スー・ミー・テリー氏へのインタビュー、在米の脱北者キム・ヘス氏へのインタビュー、北朝鮮人権委員会のスカラトウ代表へのインタビューが取り上げられた。

カウンターデモでは以下に朱記した様子が、取り上げられた。

ナレ「乱入したのは反北朝鮮を訴える男性。脱北者だと言う。排除された反北朝鮮派は通りの反対側にカウンターデモを始めた。」

反北朝鮮派「私達はトランプ大統領を支持します。トランプさんお願いだから北朝鮮と戦争してください。文在演は出て行って欲しい。」

記者「何を訴えたい？」

反北朝鮮派「私達は自由の国なの。自由が欲しいの。金正日も金正恩もいない。金正恩なんて大嫌い。」

反北朝鮮派「なぜ彼らが金正恩政権を支持するのか理解できません。彼らは金正恩政権を維持したいだけなんだ。」

金正恩は独裁者、大量大量虐殺の犯罪者です。たくさんの北朝鮮の人々が飢えて死にました。僕たちは金正恩政権を倒さなきゃいけないんだ。」

記者「彼らは北朝鮮支持者？」

反北朝鮮派「彼らはみんな北朝鮮支持者です。いやもっとひどい。北朝鮮工作員のようなものだ。北朝鮮の指令を受けています。アメリカ人は知らないけど僕達は知っているんだ。」

スー・ミー・テリー氏へのインタビューでは以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

テリー「これは問題です。なぜなら彼らはアメリカの対北朝鮮政策に影響を及ぼそうとしているからです。親北朝鮮的な学者もいて、政策担当者を混乱に陥れています。荒っぽい団体が、アメリカ国内に存在しているのは問題だと考えています。」

記者「彼らは北朝鮮政府にコントロールされている？」

テリー「北朝鮮政府に影響を受けたり、コントロールされている団体もあるでしょう。」

在米脱北者キム・ヘス氏へのインタビューでは以下に朱記したやり取りが取り上げられていた

ナレ「米朝首脳会談の開催が発表された3月8日、ワシントンの大学でのシンポジウムで脱北者の女性たちがその体験を語っていた。」

脱北者(ヘス氏)「今日は北朝鮮での暮らしについてお話します。私は最悪の飢饉の時田舎で貧しい生活をしていました。長い間私は飢えていました。」

ナレ「観客席にいる若い女性。韓国からワシントンに留学中のキム・ヘスさん。彼女もまた脱北者だ。ヘスさんは今年2月、貴重な経験をした。ホワイトハウスでトランプ大統領と面会したのだ。」

ヘス「トランプ大統領はとても親切で、北朝鮮の人権問題に強い関心を持っていました。特に中国人の男に売られてゆく北朝鮮女性の問題に関心がありました。」

記者「トランプ大統領は北朝鮮の人権問題について解決策を示した？」

ヘス「トランプ大統領はやってみる、中国にも強く言うと言いました。」

ナレ「トランプ大統領と6人の脱北者が面会する映像は世界で報じられた。ヘスさんはこの日、別室でトランプ大統領と話していた。それには理由があった。」

ヘス「顔は撮らないで下さい。私の両親がまだ北朝鮮にいます。もし私の顔がテレビに映ったら両親は処罰されます。最近では銃殺されることはありませんが、両親は政治犯収容所に送られてしまいます。」

ナレ「ヘスさんは10年ほど前一人で脱北。中国で人身売買されそうになったが、ブローカーの元から逃げ出し、メコン川を歩いて渡ってカンボジアの韓国大使館に駆け込んだ。そんな体験をトランプ大統領に話し、北朝鮮の劣悪な人権状況を訴えた。金正恩体制を擁護する人々は実態を理解していないと指摘する。」

ヘス「平壤はプロパガンダのための地域にすぎません。北朝鮮の人々の本当の生活を知ることはできないのです。何故多くの方が脱北するのか考えて欲しいです。私は殺されることも送り繰り返されることもなく幸運でした。でも脱北した北朝鮮女性は中国人の男と結婚させられ、精神的に病んでしまいます。それでも彼女達は北朝鮮には戻りたくないのです。生活がひどく、食事も不足し、自由もないことが分かっているからです。想像を絶する話でしょうけど。」

ナレ「核やミサイルの問題で対話姿勢を見せる北朝鮮だが人権問題については。米国の人権暴力策動は対話と平和の流れに障害を作り出す挑発騒動だ。こう反発。人権問題を提起されることに神経質になっていることが伺える。ヘスさんは今こそ北朝鮮の人権問題を訴える時だと話す。」

ヘス「解決するには南北統一か、金正恩が死ぬしかありません。でもそれは不可能です。だから私たち脱北者は、北朝鮮の人々が毎日どれほど悲惨な生活をしているのかを伝えていかなければなりません。」

北朝鮮人権委員会のスカラトウ代表へのインタビューでは以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

ナレ「トランプ大統領は一般教書演説でも北朝鮮の人権弾圧を取り上げた。」

トランプ「残虐な北朝鮮の独裁政権ほど自国民を容赦なく抑圧した政権はありません。」

ナレ「恐怖政治を批判し議場に招いた脱北者を紹介した。」

トランプ「貴方が払った犠牲は我々にとっての励みだ。」

ナレ「一般教書演説や異例の面会。トランプ大統領が北朝鮮の人権問題を取り上げるようになったその裏には仕掛け人がいた。ワシントンのシンクタンク北朝鮮人権委員会のスカラトウ代表だ。」

記者「あなたがアレンジした？」

スカラトウ「そうです」

記者「いつ準備を始めた？」

スカラトウ「準備には2、3週間かかりました。もちろん喜んでお手伝いしましたよ。アメリカでメッセージを伝えるのには、大統領の一般教書演説以上に効果的な方法はありません。北朝鮮の人権問題に強い関心を持っているトランプ大統領が、世界の首脳たちに同じことをするよう働きかけるのが望ましいと思います。」

ナレ「ホワイトハウスと連絡を取り合うスカルトウ氏は今後の展開をこう見ている。」

スカルトウ「トランプ政権は北朝鮮の人権問題に関心があるというメッセージを発信しました。首脳会談で人権問題をないがしろにしないと信じています。核ミサイル問題と人権問題をまとめて協議するのではなく、別々に並行して協議することになるでしょう。人権問題の解決を断念することはありません。」

スタジオでは以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

膳場「取材した竹内明記者です。あのロー・キルナム氏の過激な主張はもう驚きなんですから、アメリカ社会の世論への影響力ってというのはあるんでしょうか。」

竹内「それはかなり限定的だと思うんですね。ただですねアメリカは他国による世論工作に非常に神経質なんです。というのもですねロシアによる SNS を使った世論操作にさらされているからなんです。しかしですね今各国の空気を見てみますと、北朝鮮との対話モードに非常に盛り上がってしまっているんですね。韓国の世論調査では金正恩委員長信頼すると答えた人が8割近く。アメリカでも好意的に見てる人が8パーセントと1割近くにまで上ってしまっているんですね。そういう意味で今は北朝鮮にとってはですね、シンパを獲得する世論工作のチャンスになってしまっているんですね。だからこそアメリカの当局者は親北朝鮮派のですね彼らの影響力というのを警戒してるということですね。」

日下部「アメリカの脱北者の人たちは何と首脳会談でね人権問題を取り上げて欲しいと願ってるんですけども、どうも核問題に終始してね、見通しは暗いんじゃないでしょうか。」

竹内「そうですね。アメリカに今脱北者220人近くいるんですけども、多くの人が慣れない英語を使ってですね、北朝鮮のひどい人権問題をアメリカ人に訴える活動しているわけなんです。しかしですね強制収容所とか、後公開処刑と言った恐怖政治ですね、これはですね金正恩体制の生命維持装置みたいなものなんです。これをなくすと国を統治できなくなってしまう。まさに急所なわけなんです。そういう意味では日下部さんのおっしゃるようですね見通しはあまり明るくないかもしれないんですけども、ただ日本人拉致というのも人道に対する罪ですから。今人権問題を交渉のテーブルに乗せるということは、日本にとってメリットはあるわけなんです。ですから日本政府はもっと脱北者の声ですね耳を傾けて、トランプ大統領に人権問題で譲歩しないようですね、働きかけていくのが大事だと思いますね。」

金平「今週に入ってね、北朝鮮側がその南北交換会議を中止するということを通告してきたり米朝首脳会談もわからないですよとね、揺さぶりをかけてきてるって言う見方もあるんですが、私が取材した限りでは、あの6

月 12 日のねシンガポールで行われるという米朝会談でほぼ確実じゃないかと思えますね。で実際アメリカがなんですけど情報ではですね、シンガポールのシャングリラホテル、等々に、その開催場所の候補を絞り込んでいて、警備状況なんかも今チェックしてるところなんですけども、そこでその朝鮮戦争を法的に終わらせるような何らかのシンボリックな合意がね、米朝間でなされんじやないかって言う見通しがありますね。それからその人権問題で言えばね、確かにそう北朝鮮国内に住む人々の抑圧的な状況って飢餓とか言動の自由とかね、そういうものが非常に重要だって、これはほんとに大きな問題ですね。」

時間配分はやや親北朝鮮派に偏っていたものの、反北朝鮮派にも十分な時間をかけて取り上げられていたこと、今回のトピックがアメリカ国内の親北朝鮮派という現象にスポットを当てた特集であったことを踏まえると、放送法の観点から問題があるとは指摘できないだろう。またスタジオでの議論にも特に偏りは見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・米大使館移転

金平キャスターは駐日イスラエル大使のベンアリ氏について「あの非常に強行で攻撃的な主張に終始したって印象だったですね。」や「結局インタビューは平行線のまま終わったんですけども、歩み寄りっていうのが見えないような状況ってのが現実だと思えましたですね。」とベンアリ大使を非難するコメントをしていたが、金平キャスターらのスタジオでの議論も非常に一方的でアメリカやイスラエルに対して批判的なものであり、イスラエルやアメリカの福音派の立場や意見に歩み寄ろうという姿勢は全く見られなかった。

VTR ではベンアリ大使の「イスラエルはこれまでずっと偏った視点の犠牲者となってきました。事実がわかる前に批判されてしまうのです。イスラエルは孤立しています。この国際社会がいかかに偏っているか偏った見方をしているかが分かります。」というコメントや、プロディ氏の「福音派はこれまで、ぞんざいに扱われてきました。ああ福音派か狂った右派なんだろうと屈辱的な扱いを受けてきました。」というコメントも紹介されていたが、スタジオでの議論を見ていると、イスラエルや福音派が「偏った視点の犠牲者」、「ぞんざいに扱われてきた」、「屈辱的な扱いを受けてきた」という認識に至るのも無理もないように思えた。